氏から社会民衆党のために運動すべく懇請されたが、私は両氏の要請でその不可能を説いた。して私等に別個の方法をとる積りだと断言した。その後、日労党が生れた大き野博士がう「党」の出現は止むを得ないと思っておたがその生まれはかく早かろうとは思はなかった。いづれにしても、日本労農党の生れたのは我国無産階級のため自分は欣ぶのである「奮闘を華祈る」と